



2004 年下半期アンテナ・伝播研究専門委員会議題

アンテナ・伝播研究専門委員会
委員長 唐沢 好男

日時： 2004 年 12 月 16 日（木） 9:30～12:30

場所： 機械振興会館 6 階 65 会議室

議題：

- | | |
|------------------------------------|-------------|
| (1) 前回（2004 年 6 月 17 日）議事録の確認 | 【AP04-2-1】 |
| (2) 2004 年度専門委員会・顧問会・アドバイザースタッフの構成 | 【AP04-2-2】 |
| (3) 報告事項 | |
| (i) 研究専門委員会運営報告・中間会計報告 | 【AP04-2-3】 |
| (ii) 第二種研究会常設委員会報告 | 【AP04-2-4】 |
| (iii) AP 論文委員会報告 | 【AP04-2-5】 |
| (iv) AP 歴史委員会報告 | 【AP04-2-6】 |
| (v) 通信ソサイエティ運営委員会報告 | 【AP04-2-7】 |
| (vi) 通信ソサイエティ独立化タスクフォース報告 | 【AP04-2-8】 |
| (vii) 第三種研「人体電磁ファントム研究会」報告 | 【AP04-2-9】 |
| (viii) 第二種研「マイクロ波シミュレータ研究会」報告 | 【AP04-2-10】 |
| (ix) ISAP 国際会議委員会報告 | 【AP04-2-11】 |
| (x) ISAP-04 開催報告 | 【AP04-2-12】 |
| (xi) アンテナ工学ハンドブック委員会報告 | 【AP04-2-13】 |
| (xii) 専門委員作業分担状況報告 | 【AP04-2-14】 |
| (4) 審議事項 | |
| (i) アンテナ・伝播研究会の今後の体制について | 【AP04-2-15】 |
| (ii) アンテナ・伝播研究会 2005 年度実施計画 | 【AP04-2-16】 |
| (iii) 2005 年ソ大会シンポジウム/チュートリアル講演等計画 | 【AP04-2-17】 |
| (iv) 後任専門委員について | 【AP04-2-18】 |
| (5) その他 | |
| (v) アンテナ・伝播研究専門委員会への提案等 | |

以下の項目は AP 研 HP での報告とさせていただきます。御覧の上意見がございましたら幹事までお知らせ下さい。

- ・ 2004 年度ソサイエティ大会シンポジウム開催報告
- ・ 2004 KJJC 開催報告

2004 年上半期アンテナ・伝播研究専門委員会議事録

日時: 2004 年 6 月 17 日(木) 9:30 ~ 12:00

場所: 機械振興会館 6 階 62 会議室

出席者: 唐沢, 長, 高橋, 山本, 新井, 岩井, 臼井, 宮下, 小林, 佐藤, 榊原, 庄木, 田口, 陳, 常川, 平部, 廣川, 平田, 藤元, 松永, 真鍋, 山田, 和田, 森下

議題:

- (1) 前回(2004 年 12 月 11 日)議事録の確認 【AP04-1-1】
確認を行った。
- (2) 2004 年度専門委員会・顧問会・アドバイザースタッフの構成 【AP04-1-2】
確認を行った。(3 人修正)
- (3) 報告事項
 - (i) アンテナ・伝播研究会 2003 年度運営報告 【AP04-1-3】
新井委員より報告。承認した。
 - (ii) 第二種研究会常設委員会報告 【AP04-1-4】
宮下委員より WS-28 の活動・決算報告。講師手当て、要確認。
山田委員より WS-29 の活動計画を報告。120 名程度を予定。超える場合は追加開催を行う。
長幹事よりその後の計画の紹介。
 - (iii) AP 論文委員会報告 【AP04-1-5】
山田委員より英文論文誌の報告。
岩井委員より和文論文誌の報告。
和文の Impact Factor が付く、会誌 9 月号を参照。
論文誌賞と功労賞の違いが不明確との意見。
庄木委員より和文誌特集号の報告。毎年 9 月に特集号を組む。
新井委員より ISAP 英文特集号の報告。9 月末✕。12 月査読予定。
森下委員より次回和文特集号の報告。今月末編集委員会に提案。✕12/26 予定。
長幹事より研究会推薦論文について提案。採択率が良くない対策として、コメントをつけて提案する。
座長、専門委員に月当番を割当てる。ポリシー等を書いたフォーマットを用意する。了承。
- (iv) AP 歴史委員会報告 【AP04-1-6】
高橋幹事より報告。
- (v) 通信ソサイエティ運営委員会報告 【AP04-1-7】
唐沢委員長より報告。ソサイエティの独立採算制になる。
新井委員よりデジタルアーカイブの報告。役員 + で検討する。
- (vi) 第三種研「人体電磁ファントム研究会」報告 【AP04-1-8】

森下委員より報告。第4期がスタート。

(vii) 第二種研「マイクロ波シミュレータ研究会」報告 【AP04-1-9】

田口委員より報告。

(viii) ISAP 国際会議委員会報告 【AP04-1-10】

唐沢委員長より報告。

ISAP05 と KJJC の違い: 国際会議と研究会、KJJC:9/22 原稿、近日中に HP で案内。

(ix) ISAP-04 開催準備状況報告 【AP04-1-11】

唐沢委員長より報告。

(x) 2004 年ソサイエティ大会 チュートリアル 【AP04-1-12】

高橋幹事より報告。

(xi) 専門委員作業分担状況報告 【AP04-1-13】

長幹事より報告。次回より縮小。

(4) 審議事項

(i) 2004 年度第一種研究会予算案 【AP04-1-14】

長幹事より説明。承認された。

(ii) アンテナ・伝播研究会 2004 年度実施計画 【AP04-1-15】

変更点: 9 月 SPS 研併催。2 月 NiCT。承認された。

(iii) 2005 年総合大会シンポジウム / チュートリアル講演等計画 【AP04-1-16】

高橋幹事より説明。シンポジウム: ブロードバンドワイヤレスにおける電波伝搬 (オーガナイザ: 市坪) WBS 研と共同提案

(iv) アンテナ・伝播研究会 長期計画 【AP04-1-17】

長幹事より説明。

(5) その他

(v) 2005 年下期会誌記事テーマ, 信学会書籍企画

提案があれば随時送ってください。

・メーリングリストを変更する。

・研究会投稿は WEB システムに変更した。

・専門委員会の資料はパスワードをかけた WEB から取れるようにする。次回の資料は各自ダウンロードして頂く。

以下の項目は AP 研 HP での報告とさせていただきます。御覧の上意見がございましたら幹事までお知らせ下さい。

(1) アンテナ・伝播研究会 2003 年度運営報告

(2) 2003 年度ソサイエティ大会シンポジウム開催報告

(3) 2004 年総合大会 シンポジウム開催報告

2004年度アンテナ・伝播研究専門委員会構成

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	任期 ~まで
1	専門委員長 唐沢 好男	電気通信大学 電子工学科 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1	0424-43-5172 karasawa@ee.uec.ac.jp	0424-43-5210	05.5
2	幹事 長 敬三	NTTドコモ 無線システム開発部 〒238-8536 横須賀市光の丘 3-5 NTTドコモ R&Dセンタ	046-840-3800 cho@m.ieice.org	046-840-6555	05.5
3	幹事 高橋 応明	千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-3498 masa@ieee.org	043-290-3327	06.5 新任
4	幹事補佐 山本 学	北海道大学 大学院情報科学研究所 メディアネットワーク専攻 〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目	011-706-6525 yamamoto@ice.eng.hokudai.ac.jp	011-706-6525	06.5 新任
5	専門委員 新井 宏之	横浜国立大学大学院 電気電子ネットワーク 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	045-339-4260 arai@ynu.ac.jp	045-338-1157	06.5 新任
6	専門委員 岩井 誠人	ATR適応コミュニケーション研究所 スマートネットワーク研究室 〒619-0288 「けいはんな学研都市」光台2-2-2	0774-95-1520 iwai@atr.jp	0774-95-1509	06.5
7	専門委員 臼井 英之	京都大学 生存圏研究所 〒611-0011 宇治市五ヶ庄	0774-38-3817 usui@rish.kyoto-u.ac.jp	0774-38-3817	07.5
8	専門委員 大平 孝	株 ATR波動工学研究所 電波研究室 〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2	0774-95-2710 ohira@atr.jp	0774-95-1508	05.5
9	専門委員 大宮 学	北海道大学 大学情報基盤センター 〒060-0811 札幌市北区北11条西5丁目	011-706-2946 omiya@iic.hokudai.ac.jp	011-706-2936	05.5
10	専門委員 宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部 〒247-8501 鎌倉市大船5-1-1	0467-41-2533 miyas@isl.melco.co.jp	0467-41-2419	06.5
11	専門委員 小林 岳彦	東京電機大学工学部情報通信工学科 〒101-8457 東京都千代田区神田錦町2-2	03-5280-3330 koba@c.dendai.ac.jp	03-5280-3389	05.5
12	専門委員 坂口 浩一	日本大学生産工学部電気電子工学科 〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1	047-474-2376 ksakaguc@ee.cit.nihon-u.ac.jp	047-474-2399	06.5
13	専門委員 佐々木正巳	北海道工業大学福祉生体工学科 〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1	011-688-2231 msasaki@hit.ac.jp	011-681-3622	05.5
14	専門委員 佐藤 和夫	(株)豊田中央研究所 フロンティア12グループ 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町長湫横道41-1	0561-63-4698 ksato@mosk.tytlabs.co.jp	0561-63-5426	05.5
15	専門委員 榊原 久二男	名古屋工業大学 おもひ領域 電気情報工学科 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町	052-735-5416 sakas@m.ieice.org	052-735-5416	08.5 新任
16	専門委員 庄木 裕樹	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1	044-549-2283 shoki@csl.rdc.toshiba.co.jp	044-520-1806	05.5
17	専門委員 田口 光雄	長崎大学工学部電気電子工学科 〒852-8521 長崎市文教町1-14	095-819-2561 mtaguchi@net.nagasaki-u.ac.jp	095-819-2558	05.5 20
18	専門委員 田中祥次	NHK放送技術研究所無線伝送方式 〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11	03-5494-3465 tanaka.s-gw@nhk.or.jp	03-5494-3208	08.5 新任
19	専門委員 陳 強	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉05	022-217-7097 chenq@sawaya.ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9223	08.5 新任
20	専門委員 常川 光一	NTT未来ねっと研究所ワイヤレスシステムイノベーション研究部 〒239-0847 横須賀市光の丘 1-1	046-859-3758 tsunekawa.koichi@lab.ntt.co.jp	046-859-3351	08.5 新任
21	専門委員 平部 正司	NECモバイルワイヤレス事業部第四開発部 〒224-8555 横浜市都筑区池辺町4035番地	045-939-2668 m-hirabe@ce.jp.nec.com	045-939-2671	06.5
22	専門委員 廣川 二郎	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 S3-20	03-5734-2567 jiro@antenna.ee.titech.ac.jp	020-4666-9134	06.5
23	専門委員 平田 晃正	大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻 〒565-0871 吹田市山田丘2-1	06-6879-7700 hirata@comm.eng.osaka-u.ac.jp	06-6879-7774	07.5
24	専門委員 藤元 美俊	福井大学 工学部 情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8913 fujimoto@fuis.fuis.fukui-u.ac.jp	0776-27-8751	08.5 新任
25	専門委員 前川 泰之	大阪電気通信大学工学部通信工学科 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8	072-820-9047 maekawa@maelab.osakac.ac.jp	072-824-0014	05.5
26	専門委員 松永真由美	愛媛大学工学部電気電子工学科 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3	089-927-9783 mmayumi@dpc.ehime-u.ac.jp	089-927-9783	08.5 新任
27	専門委員 真鍋 武嗣	情報通信研究機構 〒184-8795 小金井市貫井北町4-2-1	042-327-7544 manabe@ieee.org	042-327-6110	05.5
28	専門委員 山田 寛喜	新潟大学工学部情報工学科 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050	025-262-7477 yamada@ie.niigata-u.ac.jp	025-262-7477	08.5 新任
29	専門委員 和田 修己	岡山大学工学部 通信ネットワーク工学科 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1	086-251-8137 wada@cne.okayama-u.ac.jp	086-251-8136	06.5

2004年度アンテナ・伝播研究専門委員会顧問構成

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	備考
1	顧問 安達 三郎	東北大学 名誉教授 〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-18-8(自宅)	022-251-3708(自宅) sadachi@ma.mni.ne.jp		
2	顧問 池上 文夫	京都大学 名誉教授 〒195-0061 町田市鶴川4-28-7(自宅)	0427-35-2987(自宅) fikegami@coral.ocn.ne.jp	0427-35-2987	
3	顧問 伊藤 精彦	苫小牧工業高等専門学校 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443	0144-67-0211 itoh@office.tomakomai-ct.ac.jp	0144-67-0814	
4	顧問 稲垣 直樹	南山大学数理情報学部情報通信学科 〒489-0863 瀬戸市せいれい町27	0561-89-2010, 内線630 ant@it.nanzan-u.ac.jp	0561-89-2082/2083	
5	顧問 鹿子嶋憲一	茨城大学工学部メディア通信工学科 〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1	0294-38-5116 kagosima@dmt.ibaraki.ac.jp	0294-38-5116	
6	顧問 片木 孝至	金沢工業大学 電気系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇ヶ丘7-1	076-248-8984 katagi@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6707	
7	顧問 喜連川 隆	三菱電機(株) 〒271-0084 松戸市二十世紀が丘丸山町17(自宅)	0473-92-0088(自宅)	0473-92-0088	
8	顧問 後藤 尚久	拓殖大学工学部情報エレクトロニクス学科 〒193-8585 八王子市館町815-1	0426-65-8589 ngoto@es.takushoku-u.ac.jp	0424-65-1519	
9	顧問 澤谷 邦男	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉05	022-217-7096 sawaya@ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9292	
10	顧問 塩川 孝泰	東北学院大学工学部電気工学科 〒985-8537 多賀城市中央1-13-1	022-368-7159 shiokawa@tjcc.tohoku-gakuin.ac.jp	022-368-7159	
11	顧問 進士 昌明	東海大学開発工学部情報通信工学科 〒410-0321 沼津市西野317	0559-68-1111 shnj@wing.ncc.u-tokai.ac.jp	0559-68-1224	
12	顧問 関口 利男	東京工業大学 名誉教授 〒213-0005 川崎市高津区北見方2-21-9(自宅)	044-822-7737(自宅) tsekiguc@viola.ocn.ne.jp	044-822-7737	
13	顧問 高野 忠	宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 〒229-8510 相模原市由野台3-1-1	042-759-8315 ttakano@radionet.isas.ac.jp	042-759-8320	
14	顧問 手代木 扶	アンリツ(株) 技術本部 〒243-8555 厚木市恩名1800	046-296-6581 Teshirogi.Tasuku@ff.anritsu.co.jp	046-223-1600	
15	顧問 永井 淳	(株)東芝 〒231-0839 横浜市中区仲尾台33-11(自宅)	045-623-0829(自宅) kynagai@ytv.home.ne.jp		
16	顧問 羽石 操	埼玉大学工学部電気電子システム工学科 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255	048-858-3478 haneishi@ees.saitama-u.ac.jp	048-854-6929	
17	顧問 平澤 一紘	筑波大学システム情報工学研究科 〒305-8573 つくば市天王台1-1-1	0298-53-5315 hirasawa@is.tsukuba.ac.jp	0298-53-5206	
18	顧問 藤本 京平	(財)国際科学振興財団(非常勤) 〒251-0033 藤沢市片瀬山2-16-9(自宅)	0466-28-4027(自宅) HQM11446@nifty.ne.jp	0466-28-4027	
19	顧問 船川 謙司	三菱電機(株) 〒267-0055 千葉市緑区越智町705-140(自宅)	043-295-2289(自宅) VEM01573@nifty.ne.jp	043-295-2289	
20	顧問 古濱 洋治	宇宙航空研究開発機構 〒305-8505 つくば市千現2-1-1	029-868-5075 furuhamaya.yoji@jaxa.jp	029-868-5963	
21	顧問 細矢 良雄	北見工業大学工学部電気電子工学科 〒090-8507 北見市公園町165	0157-26-9281 hosoyays@mail.kitami-it.ac.jp	0157-25-1087	
22	顧問 水澤 丕雄	金沢工業大学電気電子系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇ヶ丘7-1	076-294-6706 ext.2292 mizusawa@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6707	
23	顧問 虫明 康人	東北大学 名誉教授 〒981-0963 仙台市青葉区あけぼの町2-18(自宅)	022-234-0501(自宅) ymushiak@sm.rim.or.jp	022-234-0501	
24	顧問 諸岡 翼	東芝リサーチ・コンサルティング(株) 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1番地	044-549-2280 tasuku.morooka@toshiba.co.jp	044-520-1806	
25	顧問 横井 寛	東京電機大学 〒195-0054 町田市三輪町31-11(自宅)	044-988-1656(自宅) h-yokoi@s2.dion.ne.jp	044-988-1656	

顧問会規定(1996.12専門委員会承認)

- ・専門委員長経験者の内、満55歳以上の方
- ・平成9年度以前のIEEE AP-S Japan Chapter Chairpersonの経験者で満55歳に達した方

アンテナ・伝播研究会 2004年度運営報告

開催日	予定件数 (実績)	開催場所	テーマ	共催	併催・協賛	会場世話人 (敬称略)	備考	大会・国際会議等
4/22(木)	10(11)	同志社大	一般	IEEE AP-S		出口 (同志社大)		
5/20(木) 5/21(金)	20(24)	岩手大	一般	IEEE AP-S, URSI-F, SAT研		萩原 (岩手大)		・5/17-19 VTC Spring ・5/23-27 URSI-B
6/17(木)	6(5)	機械振興会館	一般	IEEE AP-S		長 (NTTドコモ)	・専門委員会、 顧問会	・6/6-11 MTT-S ・6/20-26 APS
7/21(水)～ 7/23(金)	35(83)	札幌第一ホテル	光・電波ワークショップ	IEEE AP-S, URSI-F, MW 研,	EMT研(併催), MWP研(協賛)	佐々木 (北海道工大)		・7/21-25 IGRASS
8月	休会 (ISAP04開催のため)							・8/17-21 ISAP04
9/9(木)	10(9)	防衛大	一般	IEEE AP-S	SPS研(併催)	森下 (防衛大)		・9/21-24 ソサイエティ大会. ・9/23-26 VTC秋. ・9/20-24 IGRASS
10月28日～ 10月30日	(57)	朱鷺メッセ (機械振興会館へ変更)	アダプティブアンテナ、 MIMOおよび無線信号 処理技術、一般	RCS研 IEEE AP-S URSI-F		山田 (新潟大)		・European Microwave Conf. ・Phased Array Symp. ・PIERS
11月	休会 (KJJC開催のため)							・11/8-10 JINA
12/16(木)	6(6)	機械振興会館	一般	IEEE AP-S		長 (NTTドコモ)	・専門委員会、 顧問会	・12/15-18 APMC
1/20(木) 1/21(金)	20(28)	佐賀大	アンテナ設計解析 技術、一般	IEEE AP-S, URSI-F	マイクロ波シミュ レータ研(協賛)	相川 (佐賀大)		
2/19(木)	10	NICT(小金井)	一般	IEEE AP-S		真鍋 (NICT)		
3/2(水)～ 4(金)	35	YRP	移動通信WS	RCS研、MW研、 MoMuC研、SST 研、IEEE AP-S		RCS研幹事		・3/21-24総合大会

年間予定件数 / 176件(1092頁)

第2種研究会常設委員会報告

(1) 2004年度常設委員会委員構成

区分	氏名	所属	任期	備考
委員長	唐沢 好男	電気通信大学	05/05	
幹事	長 敬三	(株)NTTドコモ	05/05	05/05引継委員へ
幹事	高橋 応明	千葉大学	06/05	
委員	山本 学	北海道大学	06/05	
委員	菊間 信良	名古屋工業大学	05/05	
委員	宮下 祐章	(株)三菱電機	05/05	
委員	多賀登喜雄	関西学院大学	05/05	
委員	宇野 亨	東京農工大学	05/05	
委員	庄木 裕樹	(株)東芝	07/05	
委員	澤谷 邦男	東北大学	05/05	前委員長
委員	新井 宏之	横浜国立大学	05/05	前幹事
委員 事務局担当	広川 二郎	東京工業大学		WS 実行委員会(再開催を含む)事務局が東工大に設置されている期間
ワザハ	牧野 滋	(株)三菱電機	04/12	05/01より次期 IEEE AP-S Japan Chap. Chair

(1) WS-29,30 開催報告(詳細別紙1)

- 会場：東京工業大学 デジタル多目的ホール
- 講師：大鐘武雄(北大)
- 日時：2004年11月29日(月)，12月17日(金)9:30～17:00
- テーマ：MIMO システムの基礎と関連技術
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢(委員長)，山田(総務幹事)，長(企画幹事)，広川(会場幹事)
- 実行委員：菊間(名工大)，藤井(日本テレコム)，井上(KDDI)，大槻(東京理科大)，西森(NTT)，尾保手(茨城大)，府川(東工大)，藤元(福井大)，阪口(東工大)，原(阪大)，太郎丸(ATR)，平田(三菱)，田邊(東芝)

(2) 第2種研究会開催計画

WS-31(詳細別紙2)

- 会場：未定(東京を予定)

- 講師：鈴木康夫（東京農工大）
- 日時：2005年5月下旬
- テーマ：平面アンテナ（中級コース）（仮題）
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢（委員長），新井（総務幹事），堀（企画幹事），広川（会場幹事）
- 実行委員：羽石（埼玉大），田口（長崎大），伊藤（公）（千葉大），山本（北大），坂口（日大），関（NTT），高橋（三菱），田中（NICT），庄木（東芝），宮下（三菱）

WS-32

- 会場：未定（東京を予定）
- 日時：2005年9月～11月
- テーマ：小形アンテナ関連
- 講師：森下久（防衛大）
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢（委員長），山本（総務幹事），宇野（企画幹事），広川（会場幹事）
- 実行委員：未定

WS-33

- 日時：2006年4月～5月
- テーマ：スーパーレゾリューション関連
- 講師：山田寛喜（新潟大）
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢（委員長），長（総務幹事），菊間（企画幹事），広川（会場幹事）
- 実行委員：未定

WS-26

- 講師：高田潤一（東工大）
- テーマ：ワイヤレスパーソナル通信環境におけるアンテナシステムの特性解析手法
- 本講習会は講師の都合により中止とし、実行委員会も解散とする。

(3) 再開催開催報告

◆ 第7回再開催 WS（詳細別紙3）

- 日時：2004年7月1日（木）
2004年7月2日（金）
- 場所：東京工業大学西9号館2階デジタル多目的ホール
- テーマ：広帯域移動通信の多重波伝搬理論とモデリングコース
アレーアンテナによる適応信号処理技術と高分解能到来波推定入門コース
- 講師：多重波伝搬理論とモデリングコース：唐沢好男（電気通信大学）
適応信号処理技術と高分解能到来波推定入門コース：菊間信良（名工大）
- 開催形態：IEEE AP-S Japan Chapter, AP研共催
- 今回はテキストの配布は行わず、一般申込みの方のみ講師が第二種研究会のテキストをベースに執筆した本を本WSの付録として無償供与することとする。

第29回, 第30回 WS 活動報告

2004.11.19
総務担当幹事 山田 寛喜

1. WS29 の概要および活動状況

- WS-29 の概要
 - ・ 会場：東京工業大学 デジタル多目的ホール
 - ・ 講師：大鐘武雄（北大）
 - ・ 日時：2004年11月29日（月）9:30～17:00
 - ・ テーマ：MIMO システムの基礎と要素技術
 - ・ 開催形態：アンテナ伝播研究専門委員会主催，無線通信システム研究会協賛
- 活動状況
 - ・ 夏休み期間を含んだため，申し込みの出足が鈍く，IEEE-APS のメーリングリストを利用したPRを実施．メ切を9月30日に延長
 - ・ 第1回テキスト審議：9月11日（土）9:30-17:00 機械振興会館にて実施（第2回テキスト審議はメール審議：10/4-10/11 実施済み）
 - ・ 今回のテキストより，「著作権が著者に帰属する・複製厳禁」旨を明記
 - ・ 受講申し込み人数：138名
 - 内訳 一般/会員 72名，一般/非会員 12名
 - 学生/会員 53名，学生/非会員 1名
 - ・ テキストは，既に受講者に発送済み．
 - ・ 発表形式審議は，スライド原稿のメール審議とする．原稿の配布予定は11/15
 - ・ スライド原稿は，当日，受講者に配布する方向で事務局と相談する．

2. WS30 の概要および活動状況

- WS-30 の概要
 - 9月30日時点で，受講希望者が180名を超えたので，下記のようにWS-30を実施することとなった．
 - ・ 会場：東京工業大学 デジタル多目的ホール
 - ・ 講師：大鐘武雄（北大）
 - ・ 日時：2004年12月17日（金）9:30～17:00
 - ・ テーマ：MIMO システムの基礎と要素技術
 - ・ 開催形態：アンテナ伝播研究専門委員会主催，無線通信システム研究会協賛
- 活動状況
 - ・ 受講申込期間：9月30日～10月15日
 - ・ 受講申し込み人数：121名
 - 内訳 一般/会員 69名，一般/非会員 17名
 - 学生/会員 29名，学生/非会員 6名
 - ・ テキストは，印刷済み．11月末に発送予定．

以上．

WS31 マイクロストリップアンテナの解析と設計
鈴木康夫講師(東京農工大)

文責: 総務担当 新井

WS31 の進捗状況は下記のとおり

委員構成, 日程は別紙のとおり

シラバス審議(7/29), テキスト審議 1(10/9)により下記構成として原稿を作成予定

テキスト内容は下記目次のとおり

ページ数を全体で 180 ページ程度を目安

受講者募集は 05/1/11 のテキスト下書き作成を待って実施する

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 序論 | 4. MSA の設計手法 |
| | 4.1 設計手順 |
| | 4.1.1 はじめに |
| | 4.1.2 帯域幅を考慮した設計手順 |
| | 4.1.3 設計例 |
| | 4.1.4 設計誤差に対する評価 |
| 2. MSA に対する各種解析法とその比較 | 4.2 広帯域化 |
| 2.1 各種解析法のあらまし | 4.2.1 はじめに |
| 2.2 変分法 | 4.2.2 MSA 素子の広帯域化 |
| 2.3 境界要素法 | 4.2.3 広帯域化の問題点と対策 |
| 2.4 空間回路網法 | |
| 2.5 FDTD 法 | |
| 2.6 Full Wave 解析 | |
| 2.7 まとめ | |
| | 5. MSA による円偏波励振 |
| 3. モード展開法による MSA の解析 | 5.1 一点給電 |
| 3.1 はじめに | 5.1.1 はじめに |
| 3.2 固有関数によるアンテナ特性定式化 | 5.1.2 円偏波 |
| 3.3 矩形 MSA に対する解析例 | 5.1.3 任意形状 MSA による円偏波励振 |
| 3.4 円形 MSA に対する解析例 | |
| 3.5 任意形状 MSA に対する解析例 | |
| | A. 誘電率の測定法 |

アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ(再開催第7回)報告

広帯域移動通信の多重波伝搬理論とモデリングコース
アレーアンテナによる適応信号処理技術と高分解能到来波推定入門コース

日時：2004年7月1日(木)9:30~17:00 唐沢好男先生(電気通信大学)

2004年7月2日(金)9:30~17:00 菊間信良先生(名古屋工業大学)

会場：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館2階 デジタル多目的ホール

受講者数：128名(一般：68名，学生60名)

収支：

収入		人数	単価	
R7	一般/会員	55	¥22,000	¥1,210,000
	一般/非会員	13	¥30,000	¥390,000
	学生/会員	57	¥5,000	¥285,000
	学生/非会員	3	¥8,000	¥24,000
合計		128		¥1,909,000

支出	
会場費(当日ケータリング含む)	¥55,627
テキスト・資料代	¥499,358
講師手当(講演費, 旅費補助)	¥230,000
委員会費	¥180,130
事務局経費(アルバイト代, 通信費, 雑費)	¥140,481
合計	¥1,105,596

残金	¥803,404
IEEE AP-S Japan Chapter へ	¥401,702
IEICE AP 研へ	¥401,702

テキストについて

テキストの事前配布は(一般)? (①当日配布で十分 8 ②今回のような事前配布が良い 62 ③もっと早い時期に配布すべき 6)

テキストの自己購入は(学生)? (①問題無い 43 ②問題あり 10 [具体的に ・1日だけのワークショップのために購入を義務づけるのは少し抵抗がある ・テキストがほしい ・高い ・お金がない ・高いので生活が・・・ ・2冊は高い ・費用がかかります ・参加費とは別にお金が必要なのはきつい ・自分で買うのがめんどろだった、せめてテキスト付きと2択にすべきと思いました ・追加料金を払ってもよいので配布していただきたい])

次回開催希望（アンケート結果）：

1. 移動通信の電波伝搬測定・解析法入門コース（竹内 勉） 44
2. アダプティブアンテナ中級コース 移動通信への応用を目指して（小川 恭孝） 40
3. アンテナ測定法の基礎と実際（手代木 扶） 36
4. FD-TD 法によるアンテナ解析の実際（新井 宏之） 28
5. 高周波近似を用いた電磁界解析法入門コース（安藤 真） 21
6. 時間領域の電磁界解析法入門コース（吉田 則信） 13
7. 高周波電磁界における有限要素法の基礎と実用例（小柴 正則） 10
8. ダイアディックグリーン関数の固有関数展開を用いたアンテナ解析コース -
モーメント法による導波管スロットアンテナの解析（広川 二郎） 8
9. ポーラリメトリックレーダ入門コース（山口 芳雄） 7
10. 人体ファントムとアンテナ評価技術（伊藤 公一） 5

A P 研論文委員会報告

1. 2004年度委員構成

区分	氏名	任期	備考
委員長	唐沢 好男	05.05	
幹事	長 敬三	05.05	
幹事	高橋応明	06.05	
委員(和文)	菊間信良	05.05	和文論文誌編集委員
委員(和文)	宇野 亨	07.05	和文論文誌編集委員
委員(和文)	岩井 誠人	07.05	和文論文誌編集委員
委員(和文)	森下 久	07.05	和文論文誌編集委員
委員(和文)	村田孝雄	06.05	和文論文誌編集委員
委員(英文)	新井宏之	06.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	鈴木康夫	06.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	堀 俊和	06.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	庄木裕樹	06.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	山田寛喜	05.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	市坪信一	06.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	広川二郎	07.05	英文論文誌編集委員
委員(英文)	山口 良	07.05	英文論文誌編集委員

2. 英文論文誌編集委員会報告(山田委員)

2004年度 第1,2回英文論文誌B編集委員会より

1. 特集号関連(AP研関連分)

ISAP'04 特集号「Special Issue on 2004 International Symposium on Antennas and Propagation」(2005年6月号)

・論文投稿〆切済み, 査読中

「Recent Progress in Antenna and Propagation Researches」(2005年5月号)

・2004年度第1回英文論文誌B編集委員会にて承認

・論文締め切り 11月30日

2. 編集状況報告

・投稿件数予想値 2004年 1137件(前年 927件)(6/1現在: paper 303, letter 171)

・第1回判定までの日数(前年): 論文 161日(132), レター 83日(91)

・採択率: paper 25.5%(査読中 13.7%

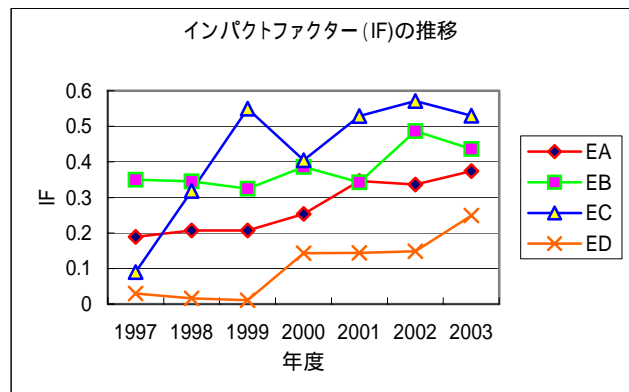
存在, 前年: 38.4%)

letter 44.8%(査読中 7%存在,

56.9%)

・国別投稿率(2003年): 韓国 35.5%, 日本 25.7%, 台湾 15.0%, 中国 11.1%, 米国 2.6%

・インパクトファクタの推移



3. 編集事例について

・Letter 査読では, 編集委員が査読委員を兼ねないことが確認された.

・2重投稿など, 悪質な投稿も見られる. 委員会として情報を共有して対応することが確認された.

4. 特集号の手続きについて
- ・ 下記のような委員構成例が示され、基本的にはそれに従った委員会とするよう要請があった。
 - ・ 委員構成例：委員長 1 名，幹事 1-2 名，編集委員若干名
投稿予定件数 20 件の場合，委員総数 10 名程度，40 件の場合は 13-14 名
 - ・ 選定人数は，一編集委員の担当論文が 2-4 件になるよう留意のこと。
 - ・ 幹事または編集委員に英文誌の編集委員が加わること。
 - ・ 特集号の巻頭言(Forward)は，委員構成を含めて 1 ページ，投稿/採録件数を示し，編集状況を公開すること。
 - ・ 特集号における著者の写真は 1 冊に付き 1 枚までとする。(IEEE のように重複している著者紹介を減らすページ削減対策。まずは特集号で試行)
5. その他
- ・ 論文誌表紙デザインの変更に関して
目次を表紙に掲載するようデザインの変更を予定。17 年 1 月号より実施。
 - ・ ISAP'04 の展示ブースにおいて，出展(パンフレット配布，会員勧誘)した。
 - ・ 海外編集委員について
前回に引き続き，海外で活躍している日本人研究者を編集委員としたい旨，説明があった。AP 研としての推薦がある場合、積極的に推薦していく。
 - ・ 投稿条件に関する見直しに関して
著者の 1 名は会員としたいという EA からの提案が実施される見通し(時期未定)。掲載料未納会員対策 + 投稿数増により会員を優先したいと言う主旨。

3. 和文論文誌編集委員会報告(岩井委員)

(1) 2004 年和文論文誌 B 投稿状況および掲載状況

・ 1 月～9 月までの投稿状況

一般論文投稿数	169 件	うち AP 関連 28 件
一般レター投稿数	44 件	うち AP 関連 9 件
特集号投稿数	105 件	うち AP 関連 29 件
特集号レター投稿数	3 件	うち AP 関連 2 件

(現在査読中の論文が多いため、採録率については調査していません)

・ 1 月号～12 月号までの掲載状況 (年内は掲載論文決定済み)

	一般	特集号	他に招待論文などを含めた合計数
論文	123 件	51 件	183 件
レター	41 件	2 件	43 件

(参考) 今年 5 月に報告した 2003 年の投稿状況

論文種別	投稿数	採録数	採録率	不採録数	不採録率	取下数	取下率	査読中数	査読中率	
論文	(一般)	216	116	53.7%	77	35.6%	12	5.6%	11	5.1%
	(特集号)	43	31	72.1%	12	27.9%	0	0.0%	0	0.0%
	(計)	259	147	56.8%	89	34.4%	12	4.6%	11	4.2%
レター, 研究速報	63	42	66.7%	19	30.2%	1	1.6%	1	1.6%	
招待論文	2	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
解説論文	3	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
研究会推薦論文	5	1	20.0%	3	60.0%	0	0.0%	1	20.0%	

・ 2003 年 1/1～12/31 までに投稿されたものの総計。現在も査読中のものがあり 5/18 現在の状況。

・ [参考] 最近 5 年の和文論文誌 B の投稿・採録状況(一般投稿のみカウント)

		1999	2000	2001	2002	2003
論文	投稿数	240	268	223	213	216
	採録率	70.4%	56.3%	62.7%	61.5%	53.7%
レター	投稿数	44	42	49	61	63
	採録率	77.2%	76.1%	69.3%	85.2%	66.6%

- (2) 2005年 特集号リスト
比較的多くの特集号が企画されている。

月	特集号
1	高い費用効果をめざした衛星システム・要素の設計・評価技術
3	次世代ネットワークソフトウェア
7	ネットワークオペレーションと資源管理
9	ブロードバンドワイヤレスのためのアンテナ・伝搬技術
10	インターネットアーキテクチャ技術
11	ユビキタス・サービスを支えるネットワークング技術

(3) その他

【論文誌賞選定】

選定プロセス：1998年9月1日から2004年5月21日までに第1回査読を終了している方（特集号含む）を対象として、査読件数の多い上位10名が今年を選定された。今回の選定ではあくまでも査読件数で選択した。当初選定基準として議論された「査読期限を守っている」や「誤りのない査読をしている」といったことは、今年については特に考慮されていない。

受賞者（敬称略）：

査読委員名	査読件数
高橋応明	29
王建青	25
陳強	24
前川泰之	22
神力正宣	20
大鐘武雄	19
常川光一	19
近藤倫正	18
高田潤一	18
河東晴子	17

【専門分野分類表の見直し】

専門分野分類表の最新化を図ることで、査読割当の際により適正なものを選択できるようにすることを目的として、専門分野分類表の見直しを行った。

大きな変更点：

- ・「交換ソフトウェア」は「交換」に吸収
- ・大項目としての「交換ソフトウェア」は削除
- ・「アンテナ・伝搬」→小項目を5項目追加
- ・「ネットワーク」、「電子通信エネルギー」→小項目をそれぞれ10項目程度追加
- ・「衛星・宇宙通信」は「衛星通信」と「宇宙利用システム」（新設）に分割した

4. 英文論文誌 B2004 アンテナ伝播国際シンポジウム特集号について（新井委員）

- 1 招待論文（4件）：依頼中
Prof. Ziolkowski, Prof. Matsumoto, Prof. Frederiksen, Prof. Ligthart
- 2 一般論文 68件程度（内レター4）
下記3編は投稿資格なしと判断し返却扱いとする->65件（内レター3件）
ISAP2004に投稿していないもの：2004IAP0064

ISAP2004 で発表していないもの：
2004IAL0003(PA-22) , 2004IAP0032(PA-16) : TSUI-TSAI LIN(National United Univ.)

3 スケジュール

2004年 9月 30日:投稿締切
2004年 10月 09日:第1回委員会(査読依頼)
10/12-10/23:査読委員割り振り, 査読期間は3週間(通常論文通り)
2004年 10月 31日:招待論文締め切り
2004年 11月 19日:査読報告締切
2004年 11月 26日:第2回委員会(採否判定) 15:00-機械振興会館を予定
第2回査読・招待論文校閲依頼
2005年 1月 14日:原稿提出締め切り
2005年 2月 7日:査読報告締切(最終判定)
2005年 2月 12日:第3回委員会(採否, 最終決定)・招待論文校閲終了
2005年 2月 28日 事務局原稿引き渡し
2005年 3月 編集作業
2005年 4月 編集作業
2005年 5月 編集作業
2005年 6月 1日 発行

4 投稿数が予想より多かったため, 編集委員4名を追加

5 特集号委員会構成

編集委員長: 唐沢(電通大), 幹事: 宇野(東京農工大), 新井(横浜国大)
編集委員: 岩井(KDDI), 市坪(NTTドコモ), 西本(熊本大), 広川(東工大), 藤崎(九大),
森下(防衛大), 高橋(千葉大), 白井(中央大), 黒木(呉高専), 宮下(三菱電機),
陳(東北大), 藤元(福井大), 西森(NTT)

5. アンテナ・伝搬研究の進展に関する小特集号(英文論文誌B)報告(山田委員)

6月の英文論文誌編集委員会で和文論文誌の翻訳特集であることを明記することを条件に承認された。
新たな特集号のタイトルは以下の通りである。

Special Section on

Recent Progress in Antenna and Propagation Researches

- Selected Papers Translated from the IEICE Transactions on Communications (Japanese Edition) -

(アンテナ・伝搬研究の進展に関する小特集号 ~ IEICE 和文論文誌 B 翻訳論文小特集号 ~)

(1) 招待論文

- 著者は以下のように確定。

巻頭言 (唐沢委員長)

モーメント法によるアンテナ設計(澤谷) 【H15.9 招待論文】

FDTD法を用いたアンテナ設計(宇野) 【H15.9 招待論文】

開口面アンテナの指向性解析法(安藤) 【H15.9 招待論文】

MIMOチャンネルモデリング(唐沢) 【H15.9 招待論文】

MIMOチャンネルにおける空間多重分割方式とその基本特性(大鐘) 【H16.9 招待論文】

ブロードバンド・マルチバンドアンテナ(堀) 【H16.9 招待論文】

小形アンテナ: 小型化手法とその評価法(新井) 【H16.9 招待論文】

部分空間追跡法を用いたDOA逐次推定とアダプティブビームフォーミング技術(菊間)

【H16.9 招待論文】

- 執筆方法: TEX形式。翻訳論文であるため, 図面・本文の修正は不可。付録程度の追記は可能(但し, 翻訳論文であるため, 論文の新規性なし)。

(2) スケジュール

11月30日 : 原稿締切

- 12月下旬 : 校閲締切
- 12月下旬 : 著者に修正事項の依頼
- 1月13日 : 最終原稿締切(厳守)
- 1月20日 : 入稿
- 5月1日 : 5月号発行

(3) 費用について

- 和英連携の一環として和文誌論文委員会に補助を申請(70万)予定。
- 英文誌からも招待論文助成される可能性あり。不足分はAP研負担をお願いしたい。
- 「業者による英文校正費用」が英文論文誌Bから支出される見通しとなった。

6. 「ブロードバンドワイヤレスのためのアンテナ・伝搬技術」特集号の報告(森下委員)

最近の情報化社会におけるブロードバンド化、マルチメディア化の波にあわせて、無線通信においてもブロードバンドの実現が要求されています。このために、高性能なアンテナおよび高度な電波伝搬解析技術が必要とされ、研究開発が進められています。また、MIMO に代表されるアンテナ・伝搬・システムの複合領域の研究も進んでいます。

本特集号(平成17年9月号)では、このような現在の状況を背景として、広帯域アンテナ等各種アンテナシステム、MIMO(アンテナ・伝搬・システム)、屋外・屋内伝搬、アダプティブアンテナ、フェージング・マルチパス対策技術など、アンテナ・伝搬を中心としたブロードバンドワイヤレス通信技術に関して、広い範囲で論文を募集することとしました。多数の皆様からの積極的な投稿を期待しています。

1. 対象分野

ブロードバンドワイヤレス通信に関する分野

- ・広帯域アンテナ等各種アンテナシステム
- ・MIMO(アンテナ・伝搬・システム)
- ・屋外・屋内伝搬
- ・アダプティブアンテナ
- ・フェージング・マルチパス対策技術
- ・その他、アンテナ・伝搬の関連分野

2. 掲載予定論文数

投稿予定論文数：40件，投稿予定レター数：3件，投稿予定招待論文数：4件

掲載予定論文数：30件（招待論文4件，レター2件含む）

3. 論文の執筆と取り扱い

通常の和文論文誌と同様とし、刷り上がりページ数は8ページ以内を原則とします。執筆の詳細は、毎号の和文論文誌に掲載されている「和文論文誌(B)への投稿について」もしくは、http://www.ieice.org/jpn/shiori/jb/shiori_jb.pdf を御参照下さい。

また、査読後の再提出期間(通常は60日)を短縮する場合がありますので、あらかじめ御了承下さい。

4. 論文投稿締切日 平成17年1月7日(金)必着 [締め切り厳守]

5. 投稿方法

・電子投稿の場合

投稿論文管理システム http://review.ieice.org/regist_j.wbt より登録をして下さい。電子投稿はPDFファイルのみ受け付けます。なお、投稿者チェックリスト・コピーライトトランスファーフォームは、投稿論文管理システムに仮登録の上、論文投稿締切日 平成17年1月7日(金)までに学会事務局に到着するように郵送して下さい。

・郵送の場合

(社)電子情報通信学会 出版事業部 ソサイエティ誌出版課

〒105-0011 港区芝公園 3-5-22 機械振興会館別館3階

原稿表紙及び封筒に「ブロードバンドワイヤレスのためのアンテナ・伝搬技術」と朱記して下さい

(コピー4部)。

6. 問合せ先

森下 久 防衛大学校電気情報学群電気電子工学科
〒239-8686 横須賀市走水 1-10-20
TEL [046] 841-3810(内線)2261, FAX [046] 844-5903, E-mail:morisita@nda.ac.jp

7. 特集編集委員会

委員長 唐沢好男(電通大)
幹事 岩井誠人(KDDI 研), 森下 久(防衛大)
委員 宇野 亨(農工大), 菊間信良(名工大), 庄木裕樹(東芝), 高橋応明(千葉大)
長 敬三(NTT ドコモ), 宮下裕章(三菱電機), 山口 良(NTT ドコモ), 山本 学(北大)

8. スケジュール

既に下記のとおり第1回編集委員会を開催。

日時: 2004年8月19日(木) 13:30 - 15:00

場所: 仙台国際センター(ISAP 会場内) 小会議室 4

議題:

特集号の概要についての再確認
編集委員会の構成
スケジュール
招待論文について
その他

今後のスケジュールについては別紙参照

9. 招待論文について

以下4件の招待論文を予定(敬称略)、(タイトルは仮題)

- ・「UWB アンテナ技術」 前田忠彦(立命館大)
- ・「携帯端末用アンテナの小形・広帯域化」 森下 久(防衛大)
- ・「MIMO(システムと伝搬)」 坂口 啓、高田潤一(東工大)
- ・「ブロードバンド航空衛星通信用アンテナ」 小西善彦(三菱電機)

10. その他

スケジュールや基本的な進め方は前特集号と同様とする。

7. 研究会推薦論文について

- ・2004年5月~2004年11月の研究会においては研究会からの論文投稿推薦はなかった。主な理由として、推薦対象となった発表は、既に論文投稿がなされていたことなどがある。
- ・推薦論文の選定およびコメント作成は研究会開催時の座長、および専門委員に月当番を割り当てて行うこととしたが、現時点ではあまり機能していない。今後も継続的に進めていくこととする。

AP 研「アンテナの歴史」委員会報告

委員構成

- 委員長： 塩川孝泰(東北学院大)
- 幹事： 牧野滋(三菱電機)、宇野亨(農工大)
- 幹事補佐： 高橋応明(千葉大)
- 堀俊和(福井大)、野本真一(KDDI)、真鍋武嗣(CRL)、庄木裕樹(東芝)、倉本晶夫(NEC)、鈴木康夫(農工大)、菊間信良(名工大)、長敬三(NTT)、正源和義(NHK)、森下久(防衛大)
- メーリングリスト： ap_ac-history@mail.ieice.org
ap_ac-his@mail.ieice.org (幹事用)

目的

既に評価が決まっているアンテナだけではなく、将来の可能性も考慮しできる限りの資料を保存する

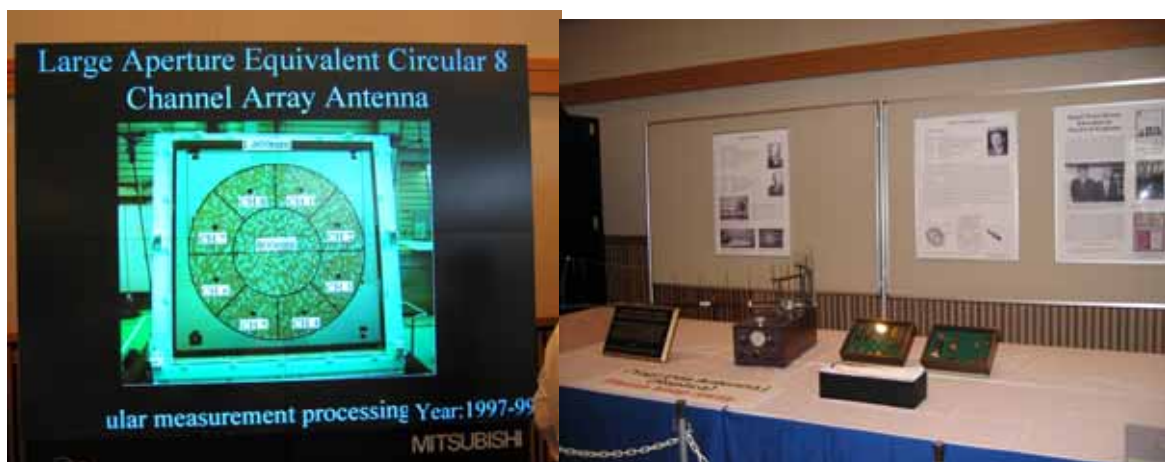
今期の活動

2004年8月17日(火)-21日(土) ISAP'04 仙台にて歴史展示

スライド形式で行う

スライドの内容は、写真、年、タイトル、アピールポイント(歴史的的重要性)とする
展示ホール桜にて100インチディスプレイで展示

IEICE Transactions on Commun.英文論文誌”Special Issue on Historical Review of Antenna Systems in Japan”, March 2003 を200部配布



通信ソサイエティ運営委員会報告

平成16年7月1日(木) 18:00 - 20:15, 機振会館
平成16年9月22日(水) 10:00 - 12:30, 徳島大学
以下、まとめてAPに関連する事項を報告する。

全体の動き： 通ソの独立採算化移行に向け、通ソ執行部は年々赤字傾向にある点に危機感を持ち、その収入源の一つである技報の売り上げに直接に関係する研究会活動については、やりやすい方に仕組みや規則を変えて、各研究会の自主性を重んじる方向を打ち出している。積極的な活動を行なっているAP研には、よい方向になっている。

1) 剰余金の件

これまで、研究会の剰余金の処理については、多くの議論が行なわれてきたが、「剰余金の
上納を廃止し、今後検討してゆく共通事務費のなかに吸収する」
という基本方針を確認。今後、タスクフォースで、再検討して、次回審議。

2) 独立採算化に向けた基本方針

このまま手を拱いていると、大変なことになるという危機意識で組織改正を行なう方向を承認。財務 / 論文関係 / 研究会・大会 / の3つの柱を強化する。

「研究会・大会」では各研専代表と大会幹事で構成される研専運営会議を作り、これに大きな権限をもたせ、研究会の事はここで決める方向。各研究会毎の自主性を重んじる(技報の値段、参加費の徴集等)。提案組織図を図1に。

[運営委員会後]この研専運営会議組織づくりのための「タスクフォース2」が参加者公募で立ち上がり、AP研も参加。

3) 卓抜技術データベース作成の件

電気情報5学会にこのテーマで科研費が付いたことでスタート。5学会 信学会 通ソまで降りてきた。次は研究会レベルに要請がある予定。功績賞・業績賞・論文賞などが候補。

以上

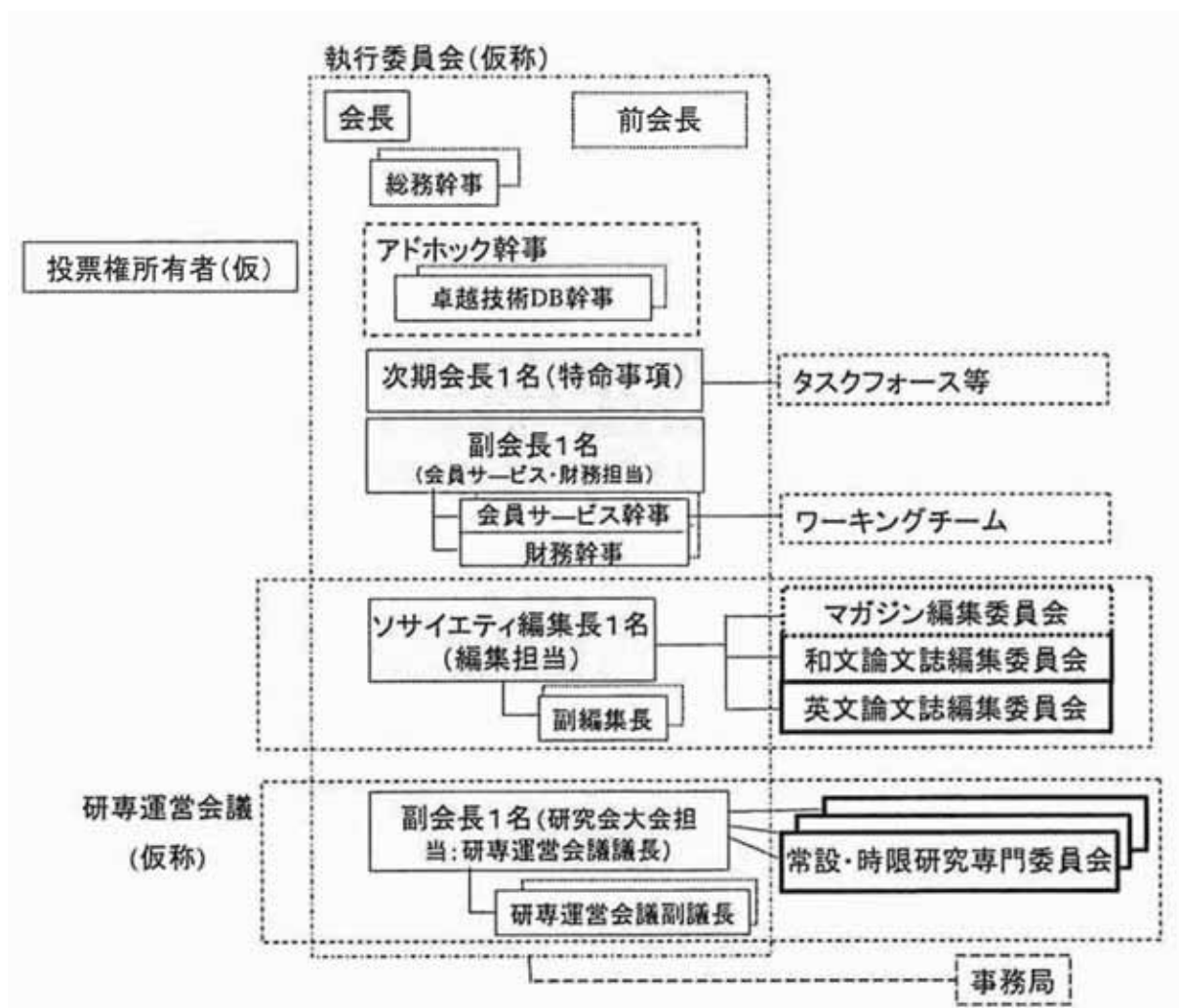


図1 通ソ新組織案

通信ソサイエティ独立化タスクフォース報告

2004.12.16
(文責)長

1. 通信ソサイエティ独立採算化の取り組みについて

通信ソサイエティは、財政面および事業計画・実施面でソサイエティ横並びではなくソサイエティ独自の施策を実現可能とすることで、より一層の会員サービスの向上を目指すとともに、論文誌、研究会等が本学会の貴重な財産であることに鑑み、論文誌編集委員会・研究会等の活動のインセンティブを高めることを目的とし、他ソサイエティに先駆けて独立化を実施していくことを検討している。

その中で、特に各研究専門委員会が研究活動面および収益面からも通信ソサイエティの中心であることを鑑み、研究専門委員会の采配で自由な研究活動が行えるように、研究専門委員会へ大幅な権限委譲を行うことが検討されている。具体的な例として、技術報告の予価を各研究専門委員会が決定したり、研究会参加費の徴収等も各研究専門委員会の裁量で行えるようにする。このようなスキームをとることで、活性化している研究会ほど、技術報告の予約価格や研究会参加費を下げるなどが可能となる。

研究専門委員会の運営について議決する機関として、各研究専門委員会の代表より構成される研専運営会議（仮称）を通信ソサイエティの中に設立することが考えられており、ここでは研究専門委員会の設立・廃止・統廃合、財務管理等も含めて扱われる。議長は通信ソサイエティの副会長が就任し、副議長は各研専から選出されるとしている。現在、特に通信ソサイエティの中で活発な研究会であるAP研とRC S研にこの研専運営会議への大きな貢献が期待されている。

移行スケジュールとしては、

H16年度 通ソ業務の洗い出しと整理

H17年度 独立採算化を試行、それとともに業務の具体的確認と見直し

H18年度 独立採算本格化

という予定で進められている。

(基本方針は別紙参照)

2. アンテナ・伝播研究専門委員会としての取り組み方針

アンテナ・伝播研究専門委員会としては、研究専門委員会の活動がより実りあるものとなるように、タスクフォースに幹事が出席して議論に参加していくと共に、次年度以降は特に研専運営会議への対応を重視し、研専運営会議担当の副委員長を新たに設置して提案、意見提起をしていくこととしたい。

以上

第三種研究会「人体電磁ファントム研究会」報告

(1) 現状

現在、第4期目(2004年5月から2006年5月まで)。
委員数: 34名(2004年5月現在)新委員等を調整中
詳細は URL <http://www.ieice.org/cs/hpem/jpn/> 参照

(2) 平成16年度の会合

第20回

日時: 平成16年5月18日(火) 18:00~20:00
場所: 航空会館801会議室(東京都港区新橋1-18-1)
参加者: 14名
議題: 第3期目の総括、来期からの研究活動及び執行部体制
調査研究報告

- ・山田直之(豊田中央研究所) ミリ波レーダ評価用歩行者ダミーの検討

第21回

日時: 平成16年7月5日(月) 18:15~20:20
場所: 航空会館801会議室(東京都港区新橋1-18-1)
参加者: 20名
議題: 第4期目の研究会構成および活動計画について、他の研究会との協賛について
調査研究報告

- ・加藤博和(岡山大学) MRI用ファントムの開発
- ・渡辺聡一(情報通信研究機構) 日本人全身数値ファントムの開発と高機能化

第22回

日時: 平成16年10月25日(月) 18:00~20:00
場所: 航空会館502会議室(東京都港区新橋1-18-1)
参加者: 24名
議題: 今後の研究会活動に関する提案など
調査研究報告

- ・平田晃正(大阪大学) マイクロ波曝露による生体内温度上昇
- ・上坂晃一(日立製作所) 非接触 LSI ピン電流探査手法の開発

第23回

日時: 平成17年2月17日(木)
場所: NICT
AP研との協賛を予定

(3) 第4期目の活動内容

年4回の割合で研究会を開催し、電磁波と人体との相互作用を明らかにするための人体電磁ファントム構築に向けて、種々の基礎データを収集する。今までは主に携帯電話の周波数帯を中心とした人体ファントムに関して調査・研究を行ってきたが、今後幅広い利用が見込まれるGHz以上およびkHz~数10MHz帯の周波数における問題やより人体組織に近い高精度ファントムまたは多用途ファントムに関する技術についても調査研究を行う。

第5期マイクロ波シミュレータ研究専門委員会報告

長崎大学 田口光雄

1. 活動報告

(1) 研究専門委員会

2004年7月14日(水)

2004年11月24日(水)

(2) 第1回「マイクロ波シミュレータの基礎」講習会

日時： 2004年9月15日(水)午前

場所： NHK放送技術研究所(東京都世田谷区砧1-10-11)

内容： 2004年4月に電子情報通信学会から発行された単行本『マイクロ波シミュレータの基礎』をテキストとして、その内容の一部について講習会を実施。

第1章『シミュレータの構成要素と接続法』 川崎繁男(東海大)

第2章『プログラム言語の種類と特徴』 真田篤志(山口大)

第3章『データ入出力の扱い方,可視化の方法,シミュレータ製作上の留意点』 小川隆博(MEL)

第13章『構成要素のシミュレーション例』の2節<アンテナ回路> 田口光雄(長崎大)

参加者 31名

(3) 第4回マイクロ波シミュレータ研究会

日時： 2004年9月15日(水)午後

場所： NHK放送技術研究所(東京都世田谷区砧1-10-11)

議題：マイクロ波シミュレータ技術一般 発表7件

(4) MWE2004 ワークショップ

セッション名：WS16 「電磁界シミュレータを使いこなす」

日時：2004年11月12日(金) 13:30-16:30

内容：

1. 各電磁界シミュレーション法の特徴 柏達也(北見工大)

2. 電磁界シミュレータの評価 - 各種電磁界シミュレータを用いたマイクロストリップアンテナの解析 - 田口光雄(長崎大)

3. RF Si CMOS 集積回路における電磁界シミュレーションの利用 益一哉(東工大)

4. マイクロ波シミュレータ共通プラットフォーム 塩見英久(大阪大)

(5) 第10回マイクロ波シミュレータワークショップ

日時： 2004年12月3日(金)

場所： 東京工業大学国際交流会館, 実行委員長： 榎木孝知(NTTフォトニクス研究所)

内容： 高周波・高速集積回路のシミュレーション技術：デバイスから配線,回路設計事例まで

2. 活動計画

(1) 第2回「マイクロ波シミュレータの基礎」講習会

開催時期、開催方法を検討中

(2) 第6期マイクロ波シミュレータ研究専門委員会

次期委員長として磯田陽次先生(東北大学)を決定、2005年3月開催のES運営委員会への趣意書提出に向けて、研究会構成員等を検討していくことになった。

4. その他

なし

ISAP国際会議委員会報告

ISAP国際会議委員会

1. 2004年度第1回委員会（2004年8月17日、仙台国際センターで開催）
 - (1) ISAP 04の機会を捉えて8月18日に、シンガポール、タイ、台湾、中国、韓国の関係者が参加して開催予定のISAP国際会議委員長主催のLuncheon Meetingへの対応を中心に審議した。主要な審議結果は以下のようであった。
 - (2) ISAP、ISAPEの統合の件については、両者で合意に至っていないことを報告する。
 - (3) ISAP国際会議委員会は、ISAP将来計画を担務としており、ISAPを通じたアジア太平洋地域でのアンテナ伝搬に関する技術交流を促進すること、その具体化案として、国際協力の下に可能であればISAPを日本内外で毎年開催の方向で進めたいと考えていることを説明する。
 - (4) 2005年韓国（開催準備中）、2007年日本（計画中）、2008年オーストラリア（暫定的に開催意志表示）であることを紹介し、2006年と2009年以降のISAP開催国についてはオープンであり開催希望国を募ること、その際に2006年については中国でISAPEが開催予定であることの注意喚起を行い、注意喚起を承知の上で開催希望が出てきた場合には、開催時期などに配慮しながら2006年ISAP国外開催の線で進めることとする。
2. ISAP国際会議委員長主催Luncheon Meeting（2004年8月18日、仙台国際センターで開催）
 - (1) シンガポール、タイ、台湾、中国、韓国の関係者とISAP国際会議委員会メンバーが出席して開催された。
 - (2) 前日のISAP国際会議委員会での審議結果を踏まえた日本側の基本的考え方について 古濱委員長より紹介。
 - (3) ISAP2005の準備状況についてISAP2005組織委員長である韓国のEom先生より紹介。
 - (4) 古濱委員長より、各国のISAP開催希望を募る旨の発言と、ISAP2005までにISAP国際会議委員会の国際化を図ることを考えており意見を求める旨の発言。
 - (5) シンガポールより2006年ISAP開催に関心がある旨の発言（このことについて日本から中国側にはっきりと説明することを前提に）、タイより2007年より後の時期にISAPを開催することについて関心がある旨の発言があった。
3. 2004年度第2回委員会（2004年10月14日、機械振興会館で開催）
 - (1) 国内開催のISAPの立上げ方法と実行委員長の選出法を定めた（内規化）。
 - (2) 上記の選出法に基づき審議し、2007年ISAPの実行委員長として東工大の安藤真先生を選出した。
 - (3) 安藤先生が中心になり、2007年ISAPの骨格案（場所、会期、主要実行体制など）を検討し、次回委員会（年内開催予定）で審議することとなった。
 - (4) ISAP2005への支援の重要性を認識し、古濱委員長名でAP研専門委員あて、ISAP2005への投稿参加への協力依頼を行うこととなった。
 - (5) シンガポールに対して2006年12月にISAPを開催する意志があるかどうか打診することになった。古濱委員長名でシンガポールのLe-Wei-Li教授あて打診したところ、2006年のISAPをシンガポールで開催することを引き受ける旨のメール連絡が11月29日に送られてきた。
 - (6) 委員会後のメール審議で、中国で2005年に開催予定の国際会議広報のため提供依頼のあったISAP 04の参加者のe-mailアドレスデータについては、データがISAPへの参加を前提にした参加者から自発的提供された個人情報であることから、それ以外の目的には提供できないこと、ISAP参加者にとって有用と考えられる会議等の広報については、ISAP側に依頼があれば広報に協力する用意がある旨回答することとした。
4. 今後の予定：第3回委員会を12月20日（月）に機械振興会館にて開催予定。

以上

2004年アンテナ伝播国際シンポジウム報告

ISAP 04 幹事 宇野 亨

主催：電子情報通信学会通信ソサイエティ

後援：URSI, IEEE AP-S, IEE AP Professional Network, CIE, KEES

協賛：電気・電子情報学術振興財団

期日：平成16年8月17日(火)～21日(土)

場所：仙台国際センター(仙台市青葉区青葉山)



シンポジウムに関する主なイベント

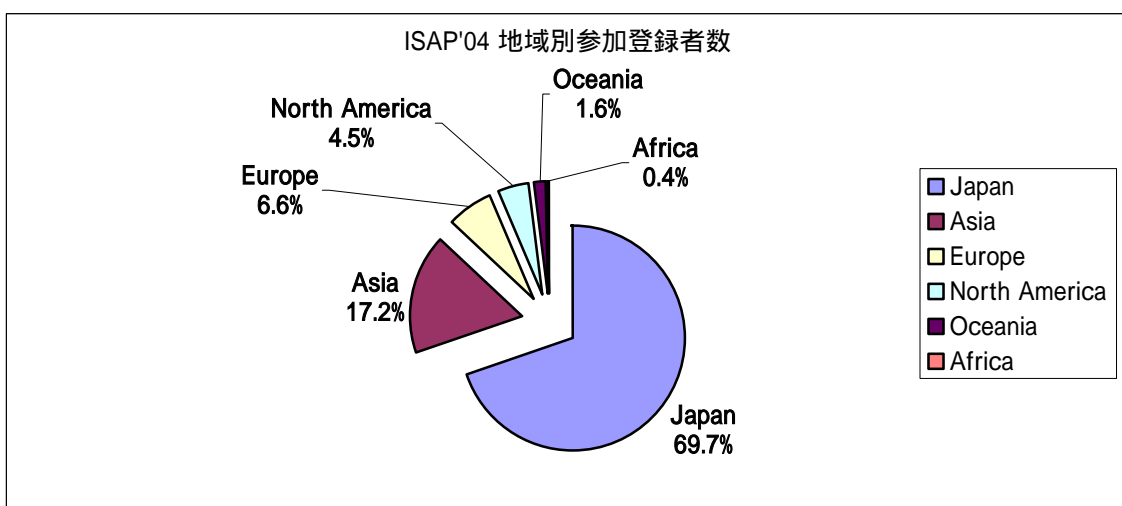
Events	Aug.17(Tue)		Aug.18(Wed)		Aug.19(Thu)		Aug.20(Fri)		Aug.21(Sat.)	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
Tech. WS										
Tech. Session										
Invited Talk										
Exhibition										

講演論文

	総数	(日本)	外国)	国数
投稿論文数	372件	(209件)	163件)	31ヶ国
採録論文数	341件	(198件)	143件)	30ヶ国
発表論文数	296件	(193件)	103件)	23ヶ国

セッション数 56 (内, 招待講演: 5, ポスターセッション: 1, 特別セッション: 1)

登録者: 557 (内, YSTG 受給者 11名, 招待者 50名, 同伴者 57名)



Paper Award : 4件

Poster Presentation Award : 4件

YSTG 支給 : 11名



「アンテナ工学ハンドブック」企画提案

アンテナ・伝播(A・P)研究専門委員長

電気通信大学 唐沢好男

アンテナ工学ハンドブック企画委員長

東北大学 澤谷邦男

1. 提案背景および主旨

昭和 55 年に発行した「アンテナ工学ハンドブック」(電子情報通信学会編、オーム社発行、企画委員会委員長虫明康人)は、発行以来、アンテナ分野のみならず電波伝搬や各種無線システム技術など関連する広範囲な技術分野の研究者のバイブルとして活用され、これまでの様々な技術開発、研究開発等に大きく寄与してきた。一方で、発行以来 20 年以上経過しており、近年の最新アンテナと関連技術等を盛り込んだかたちで改訂して欲しいとの要望が高まってきている。

アンテナ・伝播研究専門委員会では、このような要望に応えるべく、現在のアンテナ工学ハンドブックの改訂版を企画・作成していくことを決め、準備を進めている。

2. アンテナ工学ハンドブック改訂版のコンセプト

アンテナに関する広範囲の専門的事項と関連事項を一冊に簡潔にまとめ、アンテナに関連のある技術者全般、アンテナ研究に携わる研究者・学生、アマチュア無線家など幅広い分野の読者に活用していただくという従来のアンテナ工学ハンドブックのコンセプトを基本に考え、近年の技術動向等を考慮して、内容の整理、最新技術内容の追加を行う。

3. 発行時期

2007 年 12 月発行を目標とする。

4. 企画・作成体制

アンテナ・伝播(A・P)研究専門委員会が主導し、「アンテナ工学ハンドブック企画委員会」を組織し、企画・提案・執筆等を行う。

以上

提案担当: 庄木裕樹

(株)東芝 研究開発センター

/E-mail address/ shoki@csl.rdc.toshiba.co.jp

/Phone number/ 044-549-2285 (Dial-in)

/FAX number/ 044-520-1806

専門委員作業分担状況報告

電子情報通信学会等の役員・委員			
電子情報 通信学会	調査理事	小柴正則	
	評議員	荒木純道	
	代議員	片木考至, 田中正人, 渡辺文夫	
	企画幹事	田中正人	
	北海道支部	評議員	上瀧實, 野島俊雄
	東京支部	庶務幹事	荒木純道
		評議委員	真鍋武嗣, 庄木裕樹, 新井宏之
	信越支部	評議員	山田寛喜
	北陸支部	評議員	片木考至
	関西支部	評議員	安川交二
	運営委員会	委員	唐沢好男
	認定企画実施委員会	委員	堀俊和
	通信ソサイエティフ ェロー推薦委員会	委員	手代木扶
	学会誌	編集委員	藤元美俊
	和文論文誌編集委員 会	委員	菊間信良, 宇野亨, 岩井誠人, 森下久, 村 田孝雄
	英文論文誌編集委員 会	副委員長	新井宏之
		委員	鈴木康夫, 堀俊和, 庄木裕樹, 山田寛喜, 市坪信一, 広川二郎, 山口良
	人体電磁ファントム 研究会	委員長	伊藤公一
		幹事	宇野亨, 森下久, 上村佳嗣
		幹事補佐	斉藤一幸
	マイクロ波シミュレ ータ研究会	委員	平田晃正
		委員	田口光雄, 森下久
	宇宙太陽発電時限研 究専門委員会	幹事	橋本弘蔵
委員		大宮 学	
電磁会理論研究専門 委員会	委員	広川二郎	

AP 研関連学会等の役員・委員			
IEEE	AP-S Japan Chapter	Chair	牧野 滋
		Vice Chair	宇野 亨
		Secretary	宮下裕章
		Treasurer	高橋応明
	MTT-S Japan Chapter	Vice Chair	大平 孝
	IEEE Nagoya Section	副支部長	水澤丕雄
	IEEE Shikoku Section	Treasurer	松永真由美
	GRS-S Japan Council	Chair	山口芳雄
		Treasurer	山田寛喜
	札幌支部	理事	大宮 学
MTT-S JC Women in Engineering Committee	幹事	松永真由美	
URSI	研連	委員	安藤真, 唐沢好男, 大平孝
	A分科会	委員	堀 俊和
	B分科会	委員長	安藤 真
		委員	宇野 亨
	C分科会	委員長	大平 孝
		執行委員	山田寛喜
	F分科会	委員長	井原俊夫
		幹事	真鍋武嗣, 岩井誠人
		委員	大平孝, 小林岳彦, 前川泰之
	H分科会	委員長	岡田敏美
委員		橋本弘蔵	
G分科会	委員	橋本弘蔵	
K分科会	委員	伊藤公一	
JINA	Overseas Correspondence		高野忠
電気学会	電磁界理論技術委員会	幹事	松本正行
		幹事	堀俊和
映像情報メディア学会	放送技術研究会	評議員	伊藤公一
		委員	大宮 学, 堀俊和
	無線・光伝送研究会	委員	坂口浩一

訂正・記入漏れがあれば幹事までご連絡ください。

専門委員作業分担状況報告（続き）

AP 研内委員会委員等			
2 種研	常設委員会	委員長	唐沢好男
		幹事	長敬三, 高橋応明
		委員	山本学, 菊間信良, 宮下祐章, 多賀登喜雄, 宇野亨, 庄木裕樹, 澤谷邦男, 新井宏之, 広川二郎
		アドバイザー	牧野滋
	WS-29,30 講師：大鐘武雄 2004年11月29日 2004年12月17日 (東工大)	委員長	唐沢好男
		幹事(総務)	山田寛喜
		幹事(企画)	長敬三
		幹事(会場)	広川二郎
		委員	菊間, 藤井, 井上, 大槻, 西森, 尾保手, 府川, 藤元, 阪口, 原, 太郎丸, 平田, 田邊
	WS-31 講師：鈴木康夫 2005年4月 場所は東京を予定	委員長	唐沢好男
		幹事(総務)	新井宏之
		幹事(企画)	堀俊和
		幹事(会場)	広川二郎
委員		羽石, 田口, 伊藤(公), 山本, 坂口, 関, 高橋, 田中, 庄木, 宮下, 広川	
論文委員会	委員長	唐沢好男	
	幹事	長敬三, 高橋応明	
	委員	菊間信良, 宇野亨, 岩井誠人, 森下久, 村田孝雄, 新井宏之, 鈴木康夫, 堀俊和, 庄木裕樹, 山田寛喜, 市坪信一, 広川二郎, 山口良	
アンテナの歴史委員会	委員長	塩川孝泰	
	幹事	牧野滋, 宇野亨	
	幹事補佐	高橋応明	
	委員	堀俊和, 野本真一, 真鍋武嗣, 庄木裕樹, 倉本晶夫, 鈴木康夫, 菊間信良, 長敬三, 正源和義, 森下久	
研究会会場担当	2004年7月(札幌第一ホテル): 佐々木		2004年8月...休会
	2004年9月(防衛大): 森下		2004年10月(朱鷺メッセ): 山田
	2004年11月...休会		2004年12月(機会振興会館): 長
	2005年1月(佐賀大): 相川		2005年2月(NICT): 真鍋
	2005年3月(YRP): RCS 研		
ホームページ担当		山本学	

訂正・記載漏れがありましたら幹事までお知らせください。

AP 研組織変更について

7月のサッポロの研究会、9月のソサイエティ大会の発表数(208件:RCS 研と一般セッションで同数トップ)でもわかるように、AP 研は今は元気と言えるでしょう。

これは、先輩たちが切り開いてくれた様々な施策、すなわち、2種研による若手の育成、ISAP や論文特集号企画などの成果発表の場の開拓が実を結んできたことによると思います。

また、MIMO, UWB, ユビキタス、(RFID)などのように AP メンバーが力を発揮することができるサービスが脚光を浴びており、分野に追い風が吹いているといっても良いでしょう。

以上は良い面です。一方で、

- 1) 活発な活動の裏返しとして、組織の運営や活動に必要なボランティアワークの総量が増え、特定の人に集中しないための作業分担の新しい仕組みが必要になっている。
- 2) AP 研が10年後においても元気である保証は何もない。すなわち、今のうちに次の時代に花が咲く種を蒔いておく必要がある。
- 3) 信学会各ソサイエティの独立採算化への移行(H17 予定)は、研究専門委員会単位での独立採算がとれるような体力づくりが求められる。

など、新しい仕組みづくりの議論が必要な時期になってきています。

10年前にスタートした AP ワークショップが今日の元気の源だとしたら、10年後の後輩に同じことを言ってもらえる種まきが今必要と認識しています。

この新しい仕組みについて、執行部(+幹事経験者等)で以下の素案を作りました。これについて、あるいは、広く AP 研の今後のあり方(戦略)について、

ご意見を、幹事 (ap_ac-secretary@mail.ieice.org)までお寄せください。

仕組みづくりや今後の活動にご意見を反映してゆきたいと思います。

(12/6 までにご意見をいただければ、12/16 の次回専門委員会での議論に反映できます。)

AP 研新組織(執行部案)

ソサイエティ独立採算化等に伴い、研究会を取り巻く環境が来年から激変します。具体的には研専運営会議による予算配分、研究会予算の余剰金の返上、技報の値段の自由化、研究会の参加費などです。そのため、これに対応すべく、AP 研の組織も整える必要があります。

現状は委員長、幹事が全て運営を行っておりますが、仕事量が膨大であるため、副委員長の新設、各種委員会への委譲、専門委員の各委員会参加で対応していきたいと考えております。

業務内容

執行部

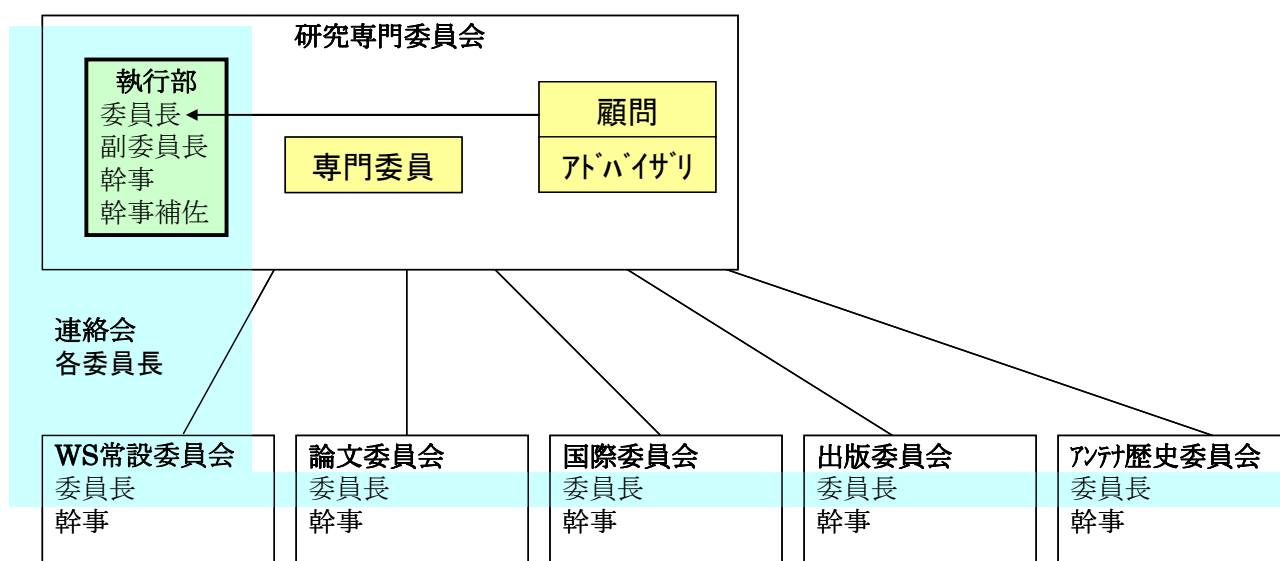
委員長	1人	(総括)
副委員長	1人	(研専運営会議担当) 新設
幹事	2人	(総務・会計, 1種研運営, 研究会推薦論文の取りまとめ)
幹事補佐	1人	(広報)

また、AP 研の中に下記委員会を組織し、それぞれに委員長、幹事をおきます。

- (1) WS 常設委員会 (2種研ワークショップの企画)
- (2) 論文委員会 (特集号の企画, 大会企画)
- (3) 国際委員会 (海外開催、合同研究会・ISAP 国際委・AP-S との連携) **新設**
- (4) 出版委員会 (アンテナハンドブック、出版(本)の提案・企画) **新設**
- (5) アンテナ歴史委員会 (日本のアンテナの情報収集)

委員会の運営、審議事項等は各委員長に一任することとします。

なお、各委員会の委員長・幹事の任期に関しては、仕事の性質等を鑑み今後決めることとします。
(2年にこだわらない)



アンテナ・伝播研究会 2005年度実施計画

開催日	予定件数 (実績)	開催場所	テーマ	共催	併催・協賛	会場世話人 (敬称略)	備考	大会・国際会議等
4/21(木)	10	立命館大	一般	IEEE AP-S		前田 (立命館大)		
5/19(木) 5/20(金)	20	鳥取環境大	一般	IEEE AP-S, URSI-F	SAT研(併催)	秦野 (鳥取環境大)		・5/30-6/1 VTC Spring ・URSI-B ?
6/23(木)	6	機械振興会館	一般	IEEE AP-S		高橋 (千葉大)	・専門委員会、 顧問会	・6/15-17 ANTEM ・MTTS?
7/20(水)~ 7/22(金)	35	層雲峡	一般	IEEE AP-S, URSI-F	SAT研(併催)	大島(旭川高 専) 森下(防衛大)		・7/3-8 APS
8月	休会 (ISAP05開催のため)							・8/3-5 ISAP04
9/8(木)	10	豊田中研	一般	IEEE AP-S	SPS研(併催)	佐藤 (豊田中研)		・9/20-23 ソサイエティ大会. ・9/18-22 WPMC. ・IGRASS ? ・VTC Fall ?
10/20(木) ~ 10/21 (金)	36	秋田県立大学	アダプティブアンテナ、 MIMOおよび無線信号 処理技術、一般	RCS研 IEEE AP-S URSI-F		阿部 (秋田県立大)		・European Microwave Conf. ? ・PIERS ?
11/17(木)	6	日本大学	一般	IEEE AP-S		坂口 (日本大)		
12/15(木)	6	東工大	一般	IEEE AP-S		広川 (東工大)	・専門委員会、 顧問会	・12/4-7 APMC
1/26(木) 1/27(金)	20	福岡工業大	アンテナ設計解析 技術、一般	IEEE AP-S、 URSI-F	マイクロ波シミュ レータ研(協賛)			
2/16(木)	10	東芝	一般	IEEE AP-S		関根 (東芝)		
3/1(水)~ 3(金)	35	YRP	移動通信WS	RCS研、MW研、 MoMuC研、SST 研、IEEE AP-S		RCS研幹事		・?総合大会

年間予定件数 / 176件 (1092頁)

2006年ソサイエティ大会シンポジウム/チュートリアル講演等計画

論文委員会報告

幹事 高橋

最新のモバイルアンテナ技術(仮)(シンポジウム)

(端末や自動車等に搭載されているアダプティブアレーなど)

幹事:庄木

今回 アンケート結果

1. EBG/PBG のアンテナへの応用, 現状AP研関係者は少ないので, MW との連携含む.
2. アンテナの広帯域化技術(UWB に限らない)
3. アンテナ伝播ハイブリッド解析技術(FDTD, モーメント法, 有限要素法, レイトレーシング, GA, ウェーブレットなどの複雑な構造への適用法や高速化法, 少メモリー化などの複合解析技術)
4. 端末用アダプティブアレーアンテナ
5. B3G(Beyond 3G)のためのダイバーシチ・干渉抑圧融合技術
6. MIMO 実装への技術課題
7. GPS を用いた高精度測位技術とアンテナ伝播
8. 次世代衛星搭載アンテナ技術 (準天頂衛星、小型衛星などに適するアンテナ技術)
9. OFDM 向けアダプティブアレーアンテナ, 阪大 原先生, 福井大 藤本先生, 名工大 菊間先生など
10. MIMO 実装技術(主に実験的な観点から), 東工大 阪口先生や NTT ドコモの方

11. 到来方向推定技術の移動無線通信への応用
12. EBG/PBG、メタマテリアルのアンテナへの応用
13. (一般に解析が困難とされている)大規模な問題や複雑な問題に対する解析技術
14. 次世代放送衛星システム(アンテナ、給電回路等)
15. 端末用スマートアンテナ

16. RFID タグのアンテナ技術
Suica, IcoCa に始まり, 物流, 生産ラインにも使われ始め, コンビニ決済の Felica や, 名古屋の万博の入場券にはミューチップが使われています. 科学研究費や総務省の研究助成で, RFID タグアンテナ関連がいくつか採択されていたようなので, これから発表も出てくるように思いますがいかがでしょうか.
17. アンテナの統合化, 集合化技術
携帯端末や自動車などには, 狭い領域に複数のサービスをカバーするアンテナが必要ですので, 各社さん開発されているように思います. 本題のような切り口でセッションを開くという方法もあるように思います.

18. RF-ID アンテナ
19. 回路(素子)とアンテナの相互結合

20. 超高周波の為のアンテナ・電波伝播諸技術

最近のシンポジウム等

- 2005(春)ブロードバンドワイヤレスにおける電波伝搬
- 2004(秋)最新アンテナ解析技術(チュートリアル)
- 2004(春)MIMO システムにおけるアンテナ・伝搬の諸技術
- 2003(秋)最新のアンテナ・伝搬技術
- 2003(春)通信・レーダのためのインターフェロメトリ・ポーラリメトリ技術
- 2002(秋)ブロードバンド無線通信におけるアンテナ伝搬の諸技術
- 2002(春)アクティブアンテナおよび関連技術
- 2001(秋)高分解能到来方向推定とその応用
- 2001(春)ITS におけるアンテナ・伝搬の諸技術
- 2000(秋)アンテナ技術のEMC問題への適用
 - 人体電磁ファントムの現状と問題点(チュートリアル)
- 2000(春)電波伝搬におけるモデル化とシミュレーション技術
- 1999(秋)アレーアンテナに関する最近の諸技術
- 1999(春)人体近傍に置かれたアンテナの解析・設計・測定技術
- 1998(秋)アダプティブアンテナの応用とその関連技術
 - 非通信分野におけるアンテナ・伝搬とその問題点(チュートリアル)
- 1998(春)電波による高機能センシング技術
 - アンテナ設計から見た電磁界シミュレータの使い方(チュートリアル)

2005年度アンテナ・伝播研究専門委員会構成(案)

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	任期 ~まで
1	専門委員長 安藤 真	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1	03-5734-2563 mando@antenna.ee.titech.ac.jp	03-5734-2901	07.5
2	副委員長 堀 俊和	福井大学工学部情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8769 hori@m.ieice.org	0776-27-8751	07.5
3	幹事 高橋 応明	千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-3498 masa@ieee.org	043-290-3327	06.5
4	幹事 宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部 〒247-8501 鎌倉市大船5-1-1	0467-41-2533 miyas@isl.melco.co.jp	0467-41-2419	06.5
5	幹事補佐 山本 学	北海道大学 大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻 〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目	011-706-6525 yamamoto@ice.eng.hokudai.ac.jp	011-706-6525	06.5
6	専門委員 新井 宏之	横浜国立大学大学院 電気電子ネットワーク 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	045-339-4260 arai@ynu.ac.jp	045-338-1157	06.5
7	専門委員 岩井 誠人	ATR適応コミュニケーション研究所 スマートネットワーク研究室 〒619-0288 「けいはんな学研都市」光台2-2-2	0774-95-1520 iwai@atr.jp	0774-95-1509	06.5
8	専門委員 臼井 英之	京都大学 生存圏研究所 〒611-0011 宇治市五ヶ庄	0774-38-3817 usui@rish.kyoto-u.ac.jp	0774-38-3817	07.5
9	専門委員 大平 孝 ATR	株 ATR波動工学研究所 電波研究室 〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2	0774-95-2710 ohira@atr.jp	0774-95-1508	05.5
10	専門委員 小林 岳彦	東京電機大学工学部情報通信工学科 〒101-8457 東京都千代田区神田錦町2-2	03-5280-3330 koba@c.dendai.ac.jp	03-5280-3389	05.5
11	専門委員 坂口 浩一	日本大学生産工学部電気電子工学科 〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1	047-474-2376 ksakaguc@ee.cit.nihon-u.ac.jp	047-474-2399	06.5
12	専門委員 佐々木正巳	北海道工業大学福祉生体工学科 〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1	011-688-2231 msasaki@hit.ac.jp	011-681-3622	07.5
13	専門委員 佐藤 和夫	(株)豊田中央研究所 フロンティア12グループ 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町長湫横道41-1	0561-63-4698 ksato@mosk.tytlabs.co.jp	0561-63-5426	07.5
14	専門委員 榊原 久二男	名古屋工業大学 おもひ領域 電気情報工学科 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町	052-735-5416 sakas@m.ieice.org	052-735-5416	08.5
15	専門委員 関根 秀一	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1	044-549-2280 shuichi.sekine@toshiba.co.jp	044-520-1806	07.5 新任
16	専門委員 福迫 武	熊本大学工学部電気システム工学科 〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1	096-342-3839 fukusako@eecs.kumamoto-u.ac.jp	096-342-3839	07.5 新任
17	専門委員 田中祥次	NHK放送技術研究所無線伝送方式 〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11	03-5494-3465 tanaka.s-gw@nhk.or.jp	03-5494-3208	08.5
18	専門委員 長 敬三	NTTドコモ 無線システム開発部 〒238-8536 横須賀市光の丘3-5 NTTドコモ R&Dセンタ	046-840-3800 cho@m.ieice.org	046-840-6555	07.5 新任
19	専門委員 陳 強	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉05	022-217-7097 chenq@sawaya.ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9223	08.5
20	専門委員 常川 光一	NTT未来ねっと研究所ワイヤレスシステムイノベーション研究部 〒239-0847 横須賀市光の丘1-1	046-859-3758 tsunekawa.koichi@lab.ntt.co.jp	046-859-3351	08.5
21	専門委員 平部 正司	NECモバイルワイヤレス事業部第四開発部 〒224-8555 横浜市都筑区池辺町4035番地	045-939-2668 m-hirabe@ce.jp.nec.com	045-939-2671	06.5
22	専門委員 廣川 二郎	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 S3-20	03-5734-2567 jiro@antenna.ee.titech.ac.jp	020-4666-9134	06.5
23	専門委員 平田 晃正	大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻 〒565-0871 吹田市山田丘2-1	06-6879-7700 hirata@comm.eng.osaka-u.ac.jp	06-6879-7774	07.5
24	専門委員 藤元 美俊	福井大学 工学部 情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8913 fujimoto@fuis.fuis.fukui-u.ac.jp	0776-27-8751	08.5
25	専門委員 前川 泰之 関西	大阪電気通信大学工学部通信工学科 〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8	072-820-9047 maekawa@maelab.osakac.ac.jp	072-824-0014	05.5
26	専門委員 松永真由美	愛媛大学工学部電気電子工学科 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3	089-927-9783 mmayumi@dpc.ehime-u.ac.jp	089-927-9783	08.5
27	専門委員 真鍋 武嗣 NICT	情報通信研究機構 〒184-8795 小金井市貫井北町4-2-1	042-327-7544 manabe@ieee.org	042-327-6110	05.5
28	専門委員 山田 寛喜	新潟大学工学部情報工学科 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050	025-262-7477 yamada@ie.niigata-u.ac.jp	025-262-7477	08.5
29	専門委員 和田 修己	岡山大学工学部 通信ネットワーク工学科 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1	086-251-8137 wada@cne.okayama-u.ac.jp	086-251-8136	06.5

2005年度アンテナ・伝播研究専門委員会顧問構成(案)

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	備考
1	顧問 安達 三郎	東北大学 名誉教授 〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-18-8(自宅)	022-251-3708(自宅) sadachi@ma.mni.ne.jp		
2	顧問 池上 文夫	京都大学 名誉教授 〒195-0061 町田市鶴川4-28-7(自宅)	0427-35-2987(自宅) fikegami@coral.ocn.ne.jp	0427-35-2987	
3	顧問 伊藤 精彦	苫小牧工業高等専門学校 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443	0144-67-0211 itoh@office.tomakomai-ct.ac.jp	0144-67-0814	
4	顧問 稲垣 直樹	南山大学数理情報学部情報通信学科 〒489-0863 瀬戸市せいれい町27	0561-89-2010, 内線630 ant@it.nanzan-u.ac.jp	0561-89-2082/2083	
5	顧問 鹿子嶋憲一	茨城大学工学部メディア通信工学科 〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1	0294-38-5116 kagosima@dmt.ibaraki.ac.jp	0294-38-5116	
6	顧問 片木 孝至	金沢工業大学 電気系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇ヶ丘7-1	076-248-8984 katagi@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6707	
7	顧問 喜連川 隆	三菱電機(株) 〒271-0084 松戸市二十世紀が丘丸山町17(自宅)	0473-92-0088(自宅)	0473-92-0088	
8	顧問 後藤 尚久	拓殖大学工学部情報エレクトロニクス学科 〒193-8585 八王子市館町815-1	0426-65-8589 ngoto@es.takushoku-u.ac.jp	0424-65-1519	
9	顧問 澤谷 邦男	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉05	022-217-7096 sawaya@ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9292	
10	顧問 塩川 孝泰	東北学院大学工学部電気工学科 〒985-8537 多賀城市中央1-13-1	022-368-7159 shiokawa@tjcc.tohoku-gakuin.ac.jp	022-368-7159	
11	顧問 進士 昌明	東海大学開発工学部情報通信工学科 〒410-0321 沼津市西野317	0559-68-1111 shnj@wing.ncc.u-tokai.ac.jp	0559-68-1224	
12	顧問 関口 利男	東京工業大学 名誉教授 〒213-0005 川崎市高津区北見方2-21-9(自宅)	044-822-7737(自宅) tsekiguc@viola.ocn.ne.jp	044-822-7737	
13	顧問 高野 忠	宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 〒229-8510 相模原市由野台3-1-1	042-759-8315 ttakano@radionet.isas.ac.jp	042-759-8320	
14	顧問 手代木 扶	アンリツ(株) 技術本部 〒243-8555 厚木市恩名1800	046-296-6581 Teshirogi.Tasuku@ff.anritsu.co.jp	046-223-1600	
15	顧問 永井 淳	(株)東芝 〒231-0839 横浜市中区仲尾台33-11(自宅)	045-623-0829(自宅) kynagai@ytv.home.ne.jp		
16	顧問 羽石 操	埼玉大学工学部電気電子システム工学科 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255	048-858-3478 haneishi@ees.saitama-u.ac.jp	048-854-6929	
17	顧問 平澤 一紘	筑波大学システム情報工学研究科 〒305-8573 つくば市天王台1-1-1	0298-53-5315 hirasawa@is.tsukuba.ac.jp	0298-53-5206	
18	顧問 藤本 京平	(財)国際科学振興財団(非常勤) 〒251-0033 藤沢市片瀬山2-16-9(自宅)	0466-28-4027(自宅) HQM11446@nifty.ne.jp	0466-28-4027	
19	顧問 船川 謙司	三菱電機(株) 〒267-0055 千葉市緑区越智町705-140(自宅)	043-295-2289(自宅) VEM01573@nifty.ne.jp	043-295-2289	
20	顧問 古濱 洋治	宇宙航空研究開発機構 〒305-8505 つくば市千現2-1-1	029-868-5075 furuhamaya.yoji@jaxa.jp	029-868-5963	
21	顧問 細矢 良雄	北見工業大学工学部電気電子工学科 〒090-8507 北見市公園町165	0157-26-9281 hosoyays@mail.kitami-it.ac.jp	0157-25-1087	
22	顧問 水澤 丕雄	金沢工業大学電気電子系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇ヶ丘7-1	076-294-6706 ext.2292 mizusawa@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6707	
23	顧問 虫明 康人	東北大学 名誉教授 〒981-0963 仙台市青葉区あけぼの町2-18(自宅)	022-234-0501(自宅) ymushiak@sm.rim.or.jp	022-234-0501	
24	顧問 諸岡 翼	東芝リサーチ・コンサルティング(株) 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1番地	044-549-2280 tasuku.morooka@toshiba.co.jp	044-520-1806	
25	顧問 横井 寛	東京電機大学 〒195-0054 町田市三輪町31-11(自宅)	044-988-1656(自宅) h-yokoi@s2.dion.ne.jp	044-988-1656	

顧問会規定(1996.12専門委員会承認)

- ・専門委員長経験者の内, 満55歳以上の方
- ・平成9年度以前のIEEE AP-S Japan Chapter Chairpersonの経験者で満55歳に達した方

2005年度アンテナ・伝播研究専門委員会アドバイザースタッフ構成（案）

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	備考
1	AS 伊藤 公一	千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-3326 ito.koichi@faculty.chiba-u.jp	043-290-3327	
2	AS 唐沢 好男	電気通信大学 電子工学科 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1	0424-43-5172 karasawa@ee.uec.ac.jp	0424-43-5210	
3	AS 堀 俊和	福井大学工学部情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8769 hori@m.ieice.org	0776-27-8751	

アドバイザースタッフ規定（1996.12専門委員会承認）

- ・ 専門委員長経験者の内、満55歳未満の方
- ・ 平成10年度以降のIEEE AP-S Japan Chapter Chairperson経験者